

「タオル帽子作成の会」を開催しました！

令和7年3月21日(金)、京都タオル帽子の会の講師の先生方をお招きし、小児科病棟でタオル帽子作りを行いました。みんなで楽しくおしゃべりしながらも、参加者それぞれがひと針ずつ思いを込めて縫い上げ、とっても素敵なタオル帽子が完成しました！

参加者からの感想

- 本日はありがとうございました。手ぬいはとても久しぶりで自信がありませんでしたが、「大丈夫！大丈夫！！」とお声をかけていただき、とても安心して頑張ることができました！！分からなかったらすぐに聞けたり、手伝っていただけたりと安心してできる雰囲気を作って下さったことで完成することができました！！お母様方とお話できる場を作って下さったこともとても嬉しかったです。そして何より先生方のご指導、「頑張ったね！」のお言葉をなかなか言われることがなかったのでうれしかったです！！😊
- 今日は丁寧に親切に教えていただきありがとうございました♥形がかわいくてしっかりした帽子ができてうれしいです。また作ってみたいです。こうして作る人、作ってもらう人が笑顔になるといいなあと思います。
- タオル帽子、最初は出来るか不安もありましたが、講師の方も優しく丁寧に教えてくださり無事完成できました！子どもも喜んでかぶってくれそうで、やはり手作りの力はすごいなと思いました！！家族や先生方以外の大人とお話する機会にもなりましたし、少し息抜きにもなりました。このような機会をありがとうございます！



講師の先生方からのひとこと

- 本日は小児科病棟に入院中のお子さんのお母さんと帽子を縫いました。皆さん頑張って縫われて、よろんでおられました。こちら元気を頂きました。皆さん頑張れ！！
- 今日は小児科病棟におじゃましました。お母様方の一生懸命に縫ってくださる姿に私達も頑張らねばと思いました。子供さんの傍にお母さんが居る、お母さんの個々との和らぎ安らぎに少しでもお役に立てればと思います。帽子のサイズは小さいですが、縫うことを楽しんでいただけてよかったですと思います。又、おじやまでできればいいですね。

令和7年度の開催は以下のとおりです。
 第1回 2025年9月19日(金) 13:30~16:00 第2回 2026年3月27日(金) 13:30~16:00
 申込：各回、開催1か月前より募集を開始します。詳細は、がん相談支援センターまでお尋ねください。

電子処方箋のご利用について

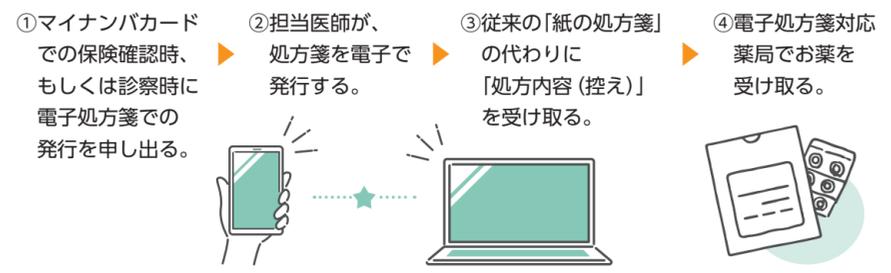
京都市立病院では、令和7年6月20日(金)から電子処方箋をご利用いただけます。電子処方箋とは、これまで紙で発行していた処方箋を電子化したものです。来院後、患者さんが電子処方箋を選択し、医師・薬剤師がお薬情報を参照することに同意いただくことで、他の医療機関・薬局が保有するお薬の情報を閲覧できるようになります。医師・薬剤師は、今から処方・調剤する薬と飲み合わせの悪い薬を服用していないかなど確認できるようになり、薬剤情報に基づいた安全な医療を受けられるようになります。

※電子処方箋に関する詳細は、厚生労働省のホームページでご確認ください

電子処方箋をご希望の方は以下を必ずご確認ください

- ① 診察前に、かかりつけの薬局が電子処方箋に対応しているか必ず確認
 薬局が電子処方箋に対応しているかを、①直接薬局に確認いただくか、②厚労省ホームページ内の対応薬局リストをご確認ください。
 ※対応可能な薬局以外では、電子処方箋での薬の調剤ができませんので、必ず事前にご確認ください。
- ② 電子処方箋を希望する場合は、医師にお申し出ください
 電子処方箋の発行を希望する場合は、マイナンバーカードでの保険確認時、もしくは診察時に医師にお申し出ください。それ以外の患者さんには従来どおり紙の処方箋を発行いたします。ただし、担当医師によっては、紙の処方箋のお渡しとなる場合がございます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。
- ③ 処方箋の有効期限は4日間です
 紙の処方箋と同様に、処方箋を交付した日から4日以内(土・日・祝日含む。)に、薬局で薬をお受け取りください。4日を超えた場合は、当院にご来院いただいた上で再発行を行いますが、紙の処方箋でのお渡しとなり、再発行費用(自費)が必要となります。

電子処方箋ご利用の流れ



みぶなの会

自分らしくがんと向き合うために



- ② 「みぶなの会」学習会を開催
- ④ 知ってほしい！
爪や皮膚のお手入れについて
—— 緩和ケア認定看護師 吉田克江
- ⑤ 投稿 みぶな広場
- ⑥ 京都市立病院トビックス
電子処方箋のご利用について

がん患者・家族のサロン「みぶなの会」

学習会を開催しました

みなさん、哲学対話をご存知でしょうか？
 哲学対話とは、さまざまな生き方やものごとを対話者と共に考え、深めていくという対話のあり方のことです。
 「みぶなの会」では、令和5年度から中岡成文先生の導きのもと、哲学対話を用いて、がんを経験された方やそのご家族、医療者が輪になって語り合い、自分の考え方や価値観を見つめ直す時間を共有してきました。
 会を重ねることで、参加者からは、「自身の経験を話すことと他者の経験を聞くことが、折り重なって力になる」との声が寄せられています。
 哲学対話のシリーズ化を望む声が多く、令和7年度は4回にわたって実施を予定しています。
 関心のあるみなさまのご参加をお待ちしています。



講師 中岡成文先生
 (一般社団法人 哲学相談おんころ 代表理事)

「哲学相談おんころ」について
 知りたい方は、こちらのQR
 コードでアクセスできます。▶

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です



令和6年度 第4回
 令和7年2月26日に「共感を考える哲学対話」と題して学習会を開催し、8名の方に参加いただきました。

学習会の様子&参加者の声

参加できて良かったです。



去年の「患者力」をテーマにした学習会が面白かったので今回も参加させていただきました。また違う形の対話があって良い時間でした。ありがとうございました。

気持ちよく皆様にお話出来ました。

初めてでしたが安心して参加できました。ありがとうございました。

日時 ※学習会とサロンは同日開催
 第2回 8月27日(水) 13:30~15:30
 第3回 11月26日(水) 13:30~15:30
 第4回 2月25日(水) 13:30~15:30
 場所 京都市立病院 北館7階サロン
 (一部オンライン同時開催)
 申込み 各回、開催1か月前より募集を開始します。
 参加希望の方はメールまたは電話でお申込みください。

問い合わせ先
 がん相談支援センター
 ☎075-311-6354(直通)
 (月曜日~金曜日 9:00~16:00)
 詳しくは、
 京都市立病院ホームページを検索



令和7年度 第1回
 令和7年5月28日に「誰のための選択?~わたしの気持ち・家族の思い」と題して学習会を開催し、10名の方に参加いただきました。

学習会の様子&参加者の声



毎回レギュラーの方もいれば、新しく、決心して参加された方のお話も聴けて、とても心に響きました。(2025年の4回シリーズの開催について)コンプリートしたいと思います。

自分の話を聞いていただく、また聞かせていただくことで大切なことが見えてくるように思いました。聞かせていただくことは、自分にとって大きな力となりました。

人の話を聞くのは得意だが、自分の話をするのは遠慮しがち。でも、順番が回ってきたため、話してみた。自分では、話してよかった。誰かも、私が自分の話をしたことをよかったとおもってくれたら幸いだ。

知りたいことの答えではありませんでしたが、話を伺い、話をさせていただくことで何かヒントをいただいた感じがしました。帰宅して考えたいと思います。当事者の方も個人的に声掛けいただき少し心が軽くなりました。参加できて良かったです。ありがとうございました。

皆さんが素直に体験をお話して下さり大変力づけられました。こういう場が有って良かったと思います。

体験者の様々なお話を聞いて良かったです。ありがとうございました。

ゆっくり話を聞き、そして、話せました。ありがとうございます。

体験談が私を明るくします。頑張ります。



がん化学療法中の患者さんに知ってほしい「爪や皮膚」のお手入れについて

痛みや歩きにくいなど日常生活に支障が出ることもあります
 早めのケアが必要です

我慢していませんか？
 爪や皮膚の症状

爪や皮膚の変化も副作用だから、
 医師・看護師・薬剤師に相談しましょう

皮膚症状

- ざ瘡様皮疹…ニキビのようなぶつぶつ
- 色素沈着…しみやくすみ
- 手足症候群
 …手のひらや足の裏の力や摩擦のかかるところに赤みや水ぶくれができる
- 白斑…皮膚の色素が抜ける



爪障害

- 見た目の変化
 …縞模様が出たり黒っぽくなる
- 亀裂や剥離
 …薄くなったり、割れやすくなる
- 爪囲炎…爪の周囲に炎症が起きる



爪・皮膚に共通したケアのポイント！

- 肌：保湿剤をむらなくたっぷり塗る
 (塗布後の肌にティッシュをのせるとくっついて落ちない程度)
 日焼けを避ける
 (日焼け止め・帽子・日傘などをうまく活用する)
- 爪：ハンドクリーム・オイルを指先までしっかりと塗る
 爪切りは爪が柔らかくなってるお風呂上りにするのがおススメ

基本は清潔と保湿
 いつものケアをほんの少し丁寧に

爪や皮膚の症状は、命に関わることは少ないです。ですが、日常生活に支障があったり、人目が気になったり、本人にとってはとてもつらいことです。
 副作用とあきらめてしまわずに、まず医師・看護師・薬剤師などそばにいる人に声をかけてみてください。対処の方法を一緒に考えましょう。
 日常生活が少し楽になる、気持ちが少し楽になるヒントが見つかるかもしれません。